

第6期幸区区民会議審議テーマに関する委員からの意見(分類別)

分類	地域の課題として、解決に向けて協議したい事項		地域の課題を解決するためのアイデアや 他の地域で既に取り組んでいる事例	委員名	
	項目	内容			
生活環境面での バリアフリーの 推進	1	高齢者や障害者にもやさしいまちづくり	●国道一号線の遠藤町交差点及び都町交差点(幸警察署)にある横断陸橋は、身障者や高齢者に対して利用する人が少ないと思われる。また、自転車でも渡る人も身の危険を感じているのではないのでしょうか。これらを改善してはどうでしょうか。	●一番良い方法は、多摩川沿いの幸町二丁目交差点の陸橋の様に、エレベーター付きで階段も緩やかで、人に優しい交差点だと思われる。せめて、新川崎交差点の様に人も自転車もゆっくり安全に渡れる様にしていたきたい。	坂口 功
	2	高齢者、障害者(車いす)の方を地域で支える仕組み作り	●歩道等のバリアフリー化は“自転車事故ゼロ部会”において提言されてきました。「地域の課題・問題」で3番目に关心が高いことあるので、さまざまな施設においてはどうか、状況・問題点を洗い出す。	●社会参加を促し、引き出す為の施策、さらにイベントの計画実施にむけて。特にバリアフリー化にあたって不便を強要されてしまうことも…。“ユニバーサルデザイン”一すべての人にとっても対応しやすくなればといった観点も必要ではないか。	橋本 文夫
	3	歩道環境の整備	●幸区では、歩道が比較的狭く且つ電柱が歩道上に立ち並び、車いすなどが通るに決ってやさしいとは言えない。ユニバーサルデザインの推進。	●電柱地中化は費用の問題があり大変だということも理解しますが、自転車も歩行者も通行しづらい道路は放っておいたら事故のもとです。陳情してもなかなか進みません。	阿部 法弘
	4		●増え続ける人、車、自転車、車いすにとって道路が狭い。整理して少しでも使いやすく。	●電柱や街灯など、設置状況の確認、どのくらい広く使えるかなど。	松井 節子
	5	トイレの設置	●新川崎駅バスターミナル(タクシー)に設置 ●新川崎駅-鹿島田駅から多摩川の運動施設へ道路に設置。例として古市場交番前の緑地に		三浦 忠一
	6	誰もが暮らしやすいまちの実現	●幸区は高齢者の人口比も高く、更に独居高齢者が多い地域である。高齢者、独居高齢者が安心して暮らすことのできるまちづくりを行うことが課題と考えられる。	●高齢者、独居高齢者の実態の把握に努めるとともに、彼らのもつ問題を挙げ、地域のコミュニティの中で安心して暮らせるような環境をつくる。 ●高齢者の閉じこもりを防ぎ、積極的に地域のコミュニティに出掛けられるまちづくりを行う。	青木 晴彦
	7	高齢者への配慮	●高齢者は、一人で閉じこもり、話し相手がいない寂しがりがある。	●高齢者に出会ったら、挨拶をし、話を聴いてみる。 コミュニティ広場があれば、紹介して閉じこもるのを防止する。	飯島 忠男
	8	情報ネットワークづくり	●地域での情報の受け手を明確に把握し、ネットワークを構築する。	●情報弱者(高齢者、障がい者、転入者、外国人等)の軽減を図りつつ町内会等を通して該当者の把握に取り組む。さらに、「A町内会・B老人会・C自治会・区役所」といった情報ネットワークを必要に応じて横断的に構築する。	小野 晴子
	9	住んでいる街がやさしい環境になる様に考える	●高齢化、子育て、身体の不自由な人、障がいのある人などに声かけで助け合うことができる街になれば、とても住みやすくなると思う。	●まずは朝の挨拶から。ご近所づきあいを大切にし、駅の階段、切符売り場、バスの乗り降り、道路の段差等、手助けの必要があるかないかの声かけができる様にする。 ●公共の目の届く所に住みやすい街のスローガンを作り、貼り出す。広報や行政新聞の活用も考える。	ケオバート ラヴァミチャン
	10	交通安全対策の推進	●幸区内でも、自転車事故が多発している。若い人の無謀な自転車運転が目につく。先日も交差点で自転車が高校生にぶつかった。	●第5期では、高齢者を対象にした交通安全教室を実施したが、若い人の無謀な運転を防止するため、中高校生を対象にした自転車事故防止教室を学校などで開催したい。	飯島 忠男
	11	交通事故0の活動推進	●1人1人のマナーの向上 ●スマホをしながら運転しない ●ルールを守る	●防止するための啓発運動 ●一声運動など	高橋 美三子

区分	地域の課題として、解決に向けて協議したい事項		地域の課題を解決するためのアイデアや 他の地域で既に取り組んでいる事例	委員名	
	分類	項目	内容		
地域防災活動の推進・地域防犯力の向上	12	「魅力」の効果的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ●「安心・安全」を幸区の第一の魅力とし、特に防災関連に重点を置いた情報提供を推進する。 ●積極的に効果的な情報発信に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市報において防災関連情報を数多く取り上げ、啓蒙を図る。例えば町内会や団地の自治体等での防災訓練を紹介し、身近なコミュニティの重要性を謳う。 ●現状の情報提供ツール全般を改めて見直す。例えば、どの媒体から区民が情報を得ているかの聞き取りを実施する。 	小野 晴子
	13	地域防災活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●各地方で地震が続いている中、大きな災害に対しての準備も必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での防災活動の実施 ●防災出前講座等の実施で、地域の人々の意識を高める 	金田 さとみ
	14	AED設置状況と救急対応(応急処置)への協力を推進	<ul style="list-style-type: none"> ●区内のAED設置マップと設置状況・運用について具体的に調査し、常に更新できるように、かつ人々がためらわずに使用できるように対応を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●公共施設、商業施設や交通機関、企業等の設置状況と日常生活時間帯での運用、休館、休業日の対応はどうかなど。 ●「誰もが安心して使える」がゆえに、自発的な対応にむけて講習や啓発・推進する。(「AEDを知る、学ぶ、覚える」一かながわAED宣言より)。 	橋本 文夫
	15	地域防犯力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●神奈川県警や、川崎市教育委員会の情報メールを登録すると、教育委員会や県警の判断等により不審者情報などの情報メールが届きますが、幸区は鶴見区や大田区と隣接しており、幸区だけの情報では隣接地域までケアできず不安なので改善して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市議会の代表質問でも上がっていましたが、検討するという回答が2年も続き、区民会議から発信しないとダメなのではないかと考えます。 	阿部 法弘
	16	新庁舎におけるエコ活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●冷房の温度の工夫等いろいろと努力をされている由 	<ul style="list-style-type: none"> ●いっその事、庁舎の窓を除いた壁へ常緑の鳥などを敷き詰めるとか。 ●空き地利用も場所がないのが「難」 ●太陽光発電の利用 	鎌田 次男
17	幸区の緑化推進	<ul style="list-style-type: none"> ●生活空間、四季のうおい実感 ●緑が豊かになることにより、省エネ・環境が良くなる ●小さな地域の公園、花壇を憩いの場に出る様にする ●家にこもりがちのお年寄りが、子どもたちと楽しめる場を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の小さな公園、花壇を中心に、木陰、あずまやを作る ●草取り、花の手入れ、清掃をする ●地域の方々に、花、緑の手入れの楽しい作業あることがわかる講習会をする ●水が取れなくなり、花植も出来なくなり、草が出ています。水を使える様にする。 	渋谷 多美枝	

	地域の課題として、解決に向けて協議したい事項		地域の課題を解決するためのアイデアや 他の地域で既に取り組んでいる事例	委員名
	分類	項目		
18		<p>●川崎市は人口増加と高齢化ということも聞き及びますが、子育て世代の流入も非常に多い都市です。子育て世代が「川崎市幸区」に魅力を感じることを考えてみたいです。</p>	<p>●川崎の魅力発信し、子育て世代の「ターン、リターン」を促進する。子育て世代への予算拠出は低く、ご年配の方への予算配分と比較しても脆弱すぎます。</p>	阿部 法弘
19	地域の魅力発信	<p>●「最幸のまち かわさき」という市長が訴えるメッセージ</p> <p>●7区の中で“住みやすいまち第1位”にランクされる幸区</p> <p>●「区民アンケート調査」から読み取る幸区の現状の評価と今後の期待</p> <p>⇒これらの視点に基づき幸区の魅力の再評価とインフラの整備等必要な施策の提案—それを有効に発信するとともに、企業・文化・教育・研究機関等の誘致に結び付け、幸区や地域の活性化・発展を実現する。</p>	<p>●幸区の魅力を単に観光資源だけでなく、良好な交通アクセス、人気のある繁華街・商店街の存在、優位性の高いビジネス環境等幅広い観点から分析・評価する。行政サイドがこれまで蓄積している資料の活用が可能。</p> <p>●資料ベースの分析に加えて、以下の手法で“魅力”の具体的な内容を抽出する。</p> <p>⇒①他の地域から進出している企業や教育・研究機関等へのヒアリング。</p> <p>②魅力の再発見を期待して地域住民対象のキメ細かなアンケートの実施。</p> <p>③魅力の源泉を探るため区内の各種団体・組織の実際の活動の把握。</p>	成川 慎一
20		<p>●夢見の動物公園や、小倉跨線橋からのトリー鉄の撮影場所の整備、またあまり知られてないスポットを探す。</p>		高橋 のぞみ
21		<p>●地域で一極集中している商店街がある中、閉店に追い込まれる店舗も多い。</p> <p>●地域に密着した拠点となるホットステーションを活用する事によって地域の活性化に繋げることができると思う</p>	<p>●道の駅・街の駅・川の駅の名称で、地域の活性化に繋がるホットステーションが町おこしに協力している事例がある。</p> <p>●土日、祝日やシーズン限定のホットステーションで、単独イベントやホットステーション同士の交流イベントで町おこしを行う。</p> <p>●地域の観光や商業資源のPRで人を呼び込む。</p>	伊藤 善通
22	<p>●区内にある魅力スポットをアピールするために、情報発信を検討し、各年代に向けたツールを利用して情報を提供し、来街者を呼び込むことを図る。</p>	<p>●多摩川、鶴見川に親水公園や加瀬山の周辺の遊歩道などの整備を図り、幸区内の里山として活性化を図る。</p>	かみや おさむ	
23	<p>●町内会などの役員の担い手が少なく、活動が停滞する傾向が多くコミュニティとしての役割が損なわれている。</p>	<p>●地域内の各種団体と幅広く交流を図り、担い手を発掘するとともに、今までの町内会としての活動が時代の要請に合致しているかを検討し、誰もが参加しやすい町内会活動の方法を検証してみたい。</p>	かみや おさむ	
24	<p>●町内会・自治会への加入者の増員を目指す。</p>	<p>●町内会・自治会のPRを行う。</p>	なかはら としこ	
25	<p>●古くから幸区に住む旧住民(シルバー世代とその家族)と、新築マンションなどに新たに流入してくる新住民(若年世代とその子ども、外国人等)が交流できる場・機会を増やすことにより、防災・防犯も含め地域のつながりを強くする。</p>	<p>●年齢に関係なく日常的に憩える場や機会を増やし、周知する。</p>	あべ としこ	
26	<p>●コミュニティ活性化</p>	<p>●祭の目的・機能を改めて見直し、実施内容を検討・拡充することが大切と考える。</p>	おの はるこ	
27	<p>●増え続ける区内マンションについて、地域での対処はできていない状況かと思われる。地震などの天災も考えられる。</p>	<p>●近隣の住人と居住している方双方とつって、住みやすい環境について、すでに実施している方法を調べたい案を提案していく。</p>	まつい せつこ	
28	<p>●鹿島田・新川崎地域、川崎駅西口など人口増が著しい地域と人口減少がみられる地域が区内にもある。その実態を調査し、地域間協力が可能な課題を探る。</p>	<p>●地区カルテの作成</p>	いたばし よういち	
29	<p>●区役所を中心に多摩川寄り及び横浜側の横軸に小型バスを運行する</p>		みうら ただかず	

分類	地域の課題として、解決に向けて協議したい事項		地域の課題を解決するためのアイデアや 他の地域で既に取り組んでいる事例	委員名
	項目	内容		
30	総合的な子ども支援 小中高の生徒及び その保護者の見守り	<p>●いじめ、中高生の犯罪、虐待、貧困など、近年子どもを取り巻く環境の中でも表からは見えづらい問題も少なくない。そのような問題に対して、子ども自身の負担にならないような見守りや支援</p>	<p>●「近所支え愛モデル事業」で「気になる高齢者」の見守りは実施されている。同じ目線で対象を「気になる小中学生」にも広める。そうしていく中で子どもの家庭環境や保護者の困っていることもあぶり出されてくるのでは。</p> <p>●こども文化センター、わくわくプラザ、寺子屋など、放課後の小中学生の居場所として様々な試みがされている。更に多くの子どもが利用しやすいよう、ハード面や人的な面でどのようなフォローができるか検討できるのでは。</p>	阿部 稔子
31	子育てのしやすさ	<p>●待機児童の解消</p>	<p>●小学校の空教室の再利用</p>	中原 敏子